

会議名	令和4年度第1回上下水道事業経営審議会
日時	令和4年8月5日(金) 15:00~16:35
場所	岐阜市役所 6階 6-1大会議室
出席委員	浅野雅樹委員、若山貴嗣委員、西垣信康委員、井深正美委員、松原和生委員 武藤豪委員、近藤隆郎委員、後藤尚久委員(会長)、服部学委員、瀬瀬晴美委員、 廣瀬美紀委員(副会長)、遠藤民雄委員、松原孝一委員、武藤仁委員
欠席委員	森健二委員
次第	1 開会 2 委員の紹介 3 会議 ・会長及び副会長の選任について 4 報告事項 ・岐阜市上下水道事業の概要及び主な審議事項について 5 その他 6 閉会
議事概要	<p>《会長及び副会長の選任について》 委員の互選により後藤尚久委員を会長に、廣瀬美紀委員を副会長に選任</p> <p>《報告事項》 岐阜市上下水道事業の概要及び岐阜市上下水道事業経営審議会における主な審議事項について事務局から説明</p> <p>《説明事項に対する質疑》 (1)岐阜市上下水道事業の概要について ・委員から、岐阜市の市街化調整区域における今後の公共下水道の整備について質問があり、公営企業としての経営の見通しや社会情勢の変化等を見据えて、事業の効果・実用性を精査し引き続き検討していくと回答</p> <p>・委員から、岐阜市の有収率が低いことについて、主な原因や改善に向けた具体的な数値目標についてご意見があり、目視での確認ができない地下漏水や、ビニール管等の漏水調査が難しいものについては漏水の発見に苦慮しているが、引き続き漏水調査を継続し、有収率の向上と漏水コストの縮減に努めること、水道管総延長の1%の布設替えを1年間の目標として実施していることを回答</p> <p>・委員から、老朽化する管路改善に向けた目標値について質問があり、経営戦略を策定する前年度(平成30年度)の実績値と経営戦略の最終年度(令和11年度)の目標値の記載が経営戦略中にされており、上下水道のいずれも、老朽化対策を実施することで対策を実施しなかった</p>

場合よりも老朽化率を抑えることができるため、目標値を設定して工事等対策を実施していると回答

(2)主な審議事項について

・委員から、経営戦略における達成目標の示し方が具体的なものである方が望ましいとご意見があり、経営戦略を策定した当時から10年以上未来の目標であるため、具体的な数値を示すことが難しいことについて説明し、理解を得た

・委員から、AIによる衛生画像解析技術を用いた漏水調査について、事業費や国からの補助金の名称、補助額について質問があり、事業費は約1,500万円、補助金の名称は厚生労働省の「IoT活用推進モデル事業」で500万円の補助を受けていると回答

・委員から、AIによる衛生画像解析技術を用いた漏水調査の有効性について質問があり、左記の技術の導入によって、市内全ての範囲の漏水調査について、大幅な時間の短縮がなされることや、調査することが難しかった箇所についても調査が可能になったことから、成果が上がるものと考えていると回答

・委員から、南部プラント等の老朽化した施設の具体的な改修・改築についてはどういった形で経営戦略に示されているのかという質問があり、老朽化施設の改修・改築については、経営戦略をマスタープランとして策定した「下水道ストックマネジメント計画」に基づいて進めていく方針であると回答

《その他の質疑・意見等》

・委員から、上下水道事業経営において新型コロナウイルス感染症の拡大による影響がどのように出ているのかという点について質問があり、新型コロナウイルス感染症の拡大による直接の影響は、推測の域を出ないが、巣ごもり需要で家庭での使用水量が増加したが、人口減少や節水機器の普及によって使用水量は減少していく傾向にあると回答

・委員から、上下水道事業経営において新型コロナウイルス感染症の拡大や、円安、電気代高騰の影響がどのように出ているのかという点について質問があり、円安よりも電気料金や重油等の動力に関する費用の高騰の影響があることについて説明

・委員から、民間のテクノロジーや、経営手法の導入、PPP・PFIといった官民連携についての方針について質問があり、それぞれの事項について、適宜導入を検討していくと回答